

安全活動推進! 意識を高めて 事故ゼロへ

①事業所全体の安全意識向上を図ろう

- 体験型の安全活動を実施しよう
- 交通ルールの勉強会を実施しよう

②行楽期の事故防止を図ろう

- 連休中の安全運転を呼び掛けよう



体験型の安全活動を実施しよう

事業所全体の安全意識を高めるためには、従業員全員の交通安全への意識づけが大切です。

そこで安全意識向上を目的に、従業員が実際に体験して学ぶ安全活動に取り組んでみましょう。

ある事業所では、車両の死角を理解させるために、業務で使用しているマイクロバスの運転席に座り、どれだけの死角があるか確認する講習を実施しています。この講習には、運転免許を取得していない従業員も参加しています。

この活動を定期的に実施することで、全従業員が車の死角を意識できるようになりました。

また、別の事業所では、適切な車間距離をとったときに、運転席から前方の車がどう見えるか体験する講習を実施しています。

こうした体験型の講習は、全従業員の参加を目標としましょう。同じ内容の講習を複数回実施するなどの工夫をする、従業員も参加しやすくなります。

交通ルールの勉強会を実施しよう

免許取得当時は交通ルールを詳細に覚えていても、時間が経てば忘れてしまいがちです。

ですが、交通ルールが身につけていない状態で運転していると、無自覚の交通違反をしてしまうだけではなく、最悪の場合、事故を引き起こすおそれがあります。

従業員に交通ルールを守ってもらうため、定期的に交通ルールに関する勉強会を実施しましょう。

勉強会では効果を確認したり、参加者でディスカッションしたりと、従業員の交通ルールに対する理解が深まるプログラムを取り入れるとよいでしょう。

連休中の安全運転を呼び掛けよう

四月末からゴールデンウィークが始まります。従業員のなかにも、レジャーや帰省などで、長時間運転する人が増えることが予想されます。

そこで連休が始まる前に従業員に対して、安全運転のアドバイスを付けておきましょう。

長時間の運転では、疲労が蓄積します。甘く考えていると、居眠り運転となって重大事故を招くおそれがあります。二時間に一回以上の定期的な休憩を徹底するようアドバイスしましょう。

加えて、慣れない道で目的地を探そうとして、スマホやカーナビを注視して事故になるケースもあります。ながら運転は、絶対にしないこともあわせて呼び掛けておきましょう。